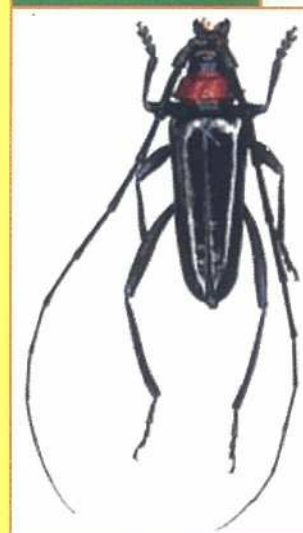


クビアカツヤカミキリ

形態	体長 2.5～4.0 cm 体色は光沢のある黒色、前胸部は赤色 他に似た大きさ体色のカミキリムシは国内にはいません。
発生時期	成虫は5月中旬～8月に羽化。幼虫は2～3年木の中で生活
被害樹種	サクラ、モモ、ウメなど



茨城県では、2019年に古河市で発見され、県西地域を中心に被害が広がっています。特にサクラの木への被害が多く確認されています。



クビアカツヤカミキリを見つけるには

成虫は5月中旬～8月頃に、サクラ、モモなどの樹木を見回ると発見できます。

幼虫の存在に気付く手がかりはフラスです。
「フラス」とは、幼虫が樹木に開けた穴から出したフンと木くずの混ざった排出物で、フラスがサクラやモモの根元にあったら要注意です。



被害木のネット巻
(成虫の拡散防止対策)



クビアカツヤカミキリのフラス
かりんとうのような形で、中に
カンナで削ったような薄い切片が
見られます。

駆除について

成虫は見つけたら逃がさないように素早く捕まえて、その場で駆除してください。
幼虫はフラスの排出孔への殺虫剤注入や樹幹への薬剤注入、伐採等で駆除します。
継続して見回りを行い丁寧に駆除することが大切です。

ツヤハダゴマダラカミキリ

形態	体長 2.0～3.5 cm 体色は黒色で翅に約20個の白斑があります。 在来種のゴマダラカミキリとよく似ているため注意が必要です。
発生時期	成虫は5月～10月に羽化。幼虫は1～2年木の中で生活
被害樹種	トチノキ属、アキニレ、リンゴ属、サクラ属、ナシ属、バラ属、 ネムノキ、ハリエンジュ、トネリコ、ヤナギ属、カツラ属など 多種 。



茨城県では、2021年につくば市で初確認。
アキニレ、トチノキ属、
カツラなどの**街路樹**
や**公園木**の他、**河川敷**
のヤナギ類などに被害
が発生しています。



ツヤハダゴマダラカミキリを見つけるには

5月～10月頃に、被害木を見回り
成虫を見つけます。被害木は木の上部に脱出孔または産卵痕（直径10～15mm）があります。



脱出孔



産卵痕

在来種ゴマダラカミキリとの見分けるポイント

前胸背部の白斑 なし	あり
翅付け根部の白斑 なし	あり
顆粒状突起 つるつる	ぶつぶつ
翅付け根部中央の白毛 なし	あり

ツヤハダゴマダラカミキリ

ゴマダラカミキリ（在来種）

駆除について

成虫はクビアカツヤカミキリと同じで、見つけたらその場で駆除してください。
幼虫は、薬剤注入、伐採等で駆除します。上部から被害を受けることが多いので、落枝等による被害を防ぐためにも早めの処理が必要です。